

◆ビオトープのホタル

淡い光を、今年はどうくらい見せてくれるのでしょうか。そろそろ蛹になるための準備を始めたころでしょうか。

水中で2～3年、モノアラガイなどを食べて15～20ミリに育ったヘイケボタルの幼虫は、昼と夜の長さ（日長）の変化を感知して、成虫になるための準備を始めます。岸边に寄って体を慣らし湿度の高い夜に上陸します。草の根元の隙間などに、長径15ミリほどのマユ形の部屋を作ります。大型種のガムシやゲンゴロウもそうですが、甲虫類は糸を使わずに唾液で塗り固めた土壁の部屋です。

飼育下での観察から、上陸・蛹化・羽化の経過を追ってみましょう。泥底から這い出し水面近くに集まるようになって1～2週間、上陸をくりかえし部屋づくりの適所を探すのに1週間ほど、場所を決め部屋をつくる作業に2～3日、作り終わって2日間休眠（前蛹）、一皮脱いで蛹化、

蛹の期間は7～8日、幼虫時代の黒いトゲトゲの姿から一変、全体に白～薄い肌色で真珠のようにツヤがあります。大きな目から色づいてくるとまもなく羽化、羽化して半日ほどは全身「白」、数日部屋にとどまり、雨上がりの暖かい夜に相手を求めて飛び立ちます。上陸準備を始めてから約1ヶ月後になります。

♀は草の先端で灯台のように1秒ほどのテンポで点滅していることが多いようです。♂は速いテンポで小刻みに点滅しながら♀を探して移動します。発生する♂♀はほぼ同数なのですが、♀は交尾を済ませると、強く光るのをやめ産卵の準備に入りますので野外で目にするのは「♂の方が断然多い」ということになります。

人間には人気があるのですが、ホタルは体内に毒をもっているとも言われ、またその発する臭いが嫌われるのか、ホタルが他の生き物に捕食されることはあまり無いようです。クモの巣に引っ掛かってぐるぐる巻きにされたまま光っているホタルも救出してやると生きています。獲物がかかって喜んでぐるぐる巻きにして、「サアーお食事」と思ったクモもその臭さに参って放置したのでしょう。そんなことから「必要」も無いためか、ホタルは逃げることを知らない虫です。

遠くから見ている分には、やはり夏の夜の魅力のひとつと言えるホタル、ビオトープ・イタンキに長く定着出来るように、そっと見守ってやりたいものです。（大西 勲）



ヘイケボタル

平成 24 年ホタル観察会参加者の感想から

「ピアノの先生とパパさん先生とイタンキにホタルを見に行った。パパさん先生はビオトープ・イタンキのヘイケボタルのふっかつ運動をしている方です。ホタルはめずらしくひかりながらとんでいたそうです。わたしは夜のホタルをはじめて見た、きれいだったし、メスとオスのひかり方のちがうことも知った。ほかにシロスジコガネとカエル（足としっぽのある）もいた。シロスジコガネをパソコンでしらべたら大阪ではぜつめつきぐしゅだった。だからはなしてあげた。もう一度ホタルを見たい！！」（白鳥台小2年 ちはな）